EVIDENCE BACED EDUCATION

令和６年度（2024年度）
エビデンスに基づく資質・能力育成事業
実践発表校（高等学校）全道研究会

令和5年度実践校

北海道枝幸高等学校

北海道枝幸高等学校　教頭　須田　和幸

EVIDENCE BACED EDUCATION

目次

01 はじめに

目的
本校（枝幸町・宗谷）の
　「これまで」と「これから」
改善目標の設定

02 スケジュール

枝幸町立中学校へのヒアリング
校内研修
中高交流会

03 生徒の変容

時期
対象学年

04 教職員・学校の変容

魅力ある教育活動と仕掛けづくり

05 おわりに

学校全体をアップデートする

EVIDENCE BACED EDUCATION

01
はじめに

目的

中学校までの学びの成果や課題を踏まえた授業改善

目的の実現のために

エビデンスに基づくPDCAサイクル

を"どのように"回す

[改めて考えてみたこと]

枝幸高校はどのような生徒を育てたいか？

枝幸町立中学校はどのような生徒を育てているか？

現状と理想との差をどのツールを用いて、どのように見取るか？

本校（枝幸町・宗谷）の「これまで」と「これから」

地元中学校からの進学率が１００％である本校において、
エビデンスに基づき、小中高が連携して授業改善に取り組み、地域（全道）に還元する。

エビデンス (候補)

高等学校「学習状況調査」
中学校「全国学力・学習状況調査」
における同一質問肢の数値変化

中高連携

令和５年（2023年）11月１日
に中高交流会※を実施

※枝幸高校と枝幸町立中学校
３校を対象とした交流会

地域に還元

枝幸町教育委員会との連携
町内生徒の学力状況（課題）共有

本全道研究会において説明・紹介の時間をいただきありがとうございます！！

改善目標の設定

令和４年度入学生の"POSITIVE"と"NEGATIVE"から傾向を把握する。※

現状N-1 **12.5**	生徒が、授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表することができる。
現状N-2 **5.0**	生徒が、自分で計画を立てて勉強することができる。
現状N-3 **17.5**	生徒が、自分には、よいところがあると思うことができる。
現状N-4 **15.0**	生徒が、難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦することができる。

現状P-1

今年度に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。（「ほぼ毎日」の割合）

80.0

ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。
（「当てはまる」の割合）

60.0

※「当てはまる」と回答した割合

EVIDENCE BACED EDUCATION

02
スケジュール

枝幸町立中学校へのヒアリング

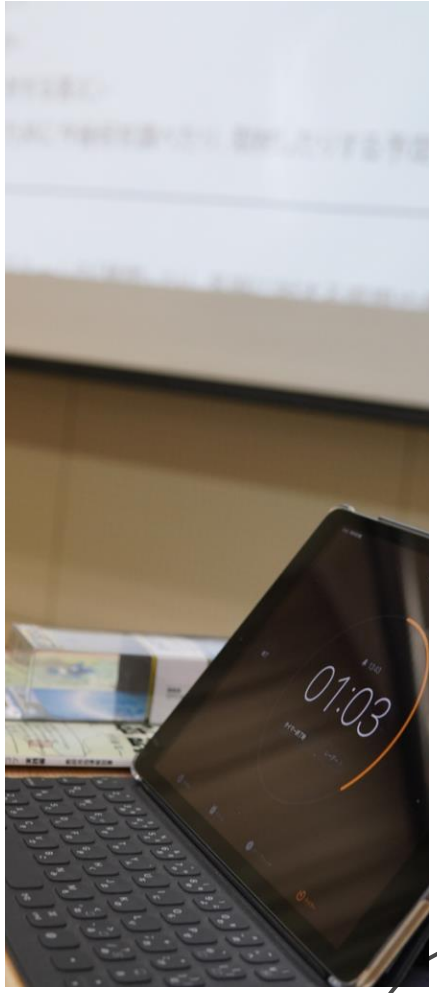
令和５年８月上旬に、町内３中学校の教頭先生との情報交換において整理

枝幸町立中学校の生徒の傾向

- **自己開示が苦手な生徒**
- **計画や管理が苦手な生徒**
- **自尊感情自己肯定感が低い生徒**
- **多様な生徒**
- 意欲差 学力差

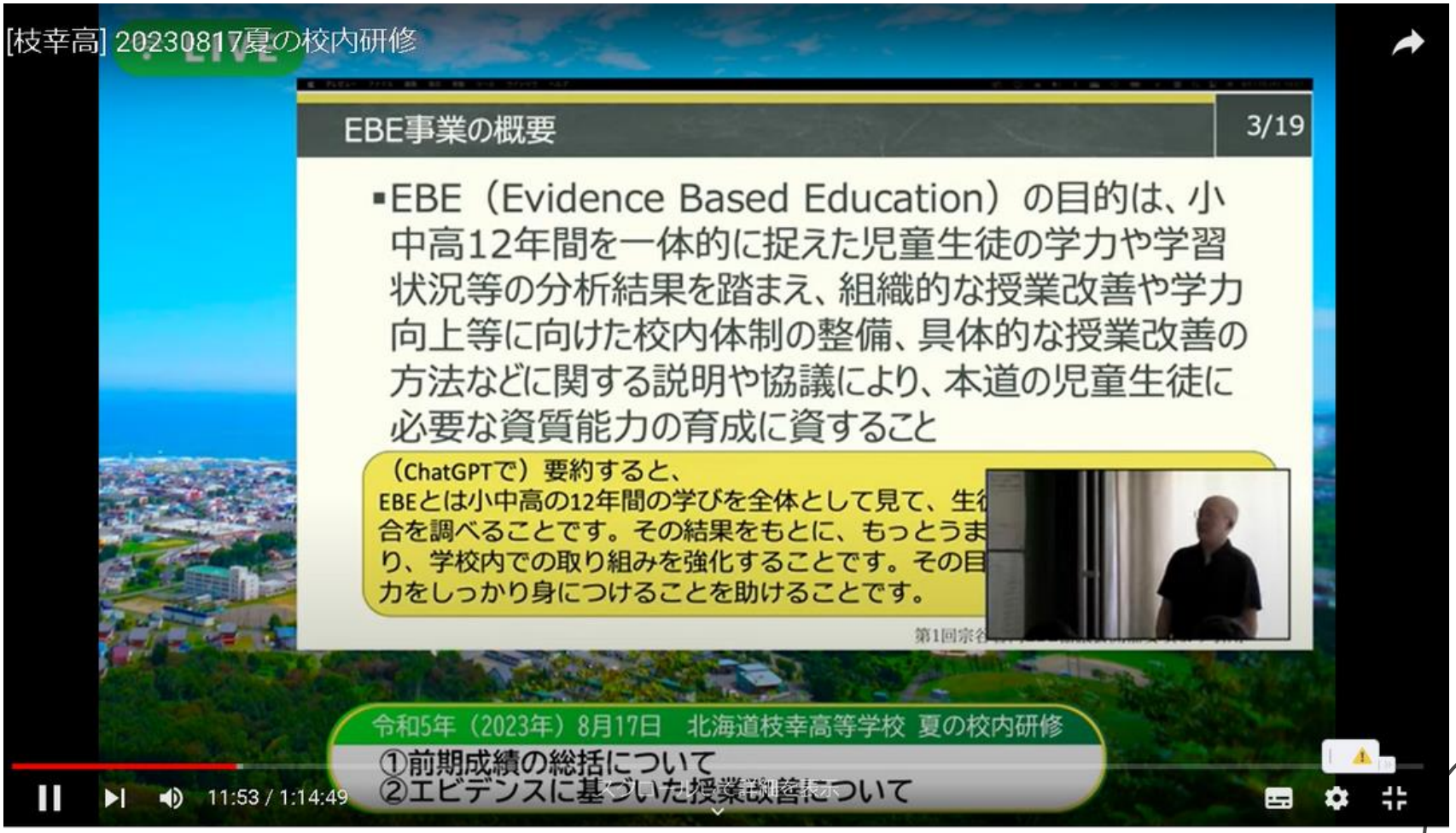
枝幸町立中学校の生徒にとって必要な取組

- ピクトの活用
- ICT機器の活用
- 多様な表現方法
- 主体的対話的
- ペアグループワーク
- まとめる振り返る
- 安心・安全な環境づくり
- 高校入試外発的動機付け
- **内発的動機付けの工夫**
- **家庭との連携**
- **自己決定機会設定**
- **生徒の特性を生かす**
- 共感的理解



校内研修

中学校までの学びの成果や課題を踏まえた授業改善に向け、教員のベクトルを合わせる



中高交流会

中学校までの学びの成果や課題を踏まえた授業改善に向け、生徒が主体的に自分の考えを他者に伝えられるような授業づくり

日　　時 令和５年11 月１日（水） 13：40～16：40
会　　場 北海道枝幸高等学校
運 営 者 北海道枝幸高等学校教務部研修担当他
内　　容
○ 講 演
　宗谷教育局教育支援課高等学校教育指導班主査 石山 智浩 様（当時）
　タイトル
　　「中学校までの学びの成果・課題を踏まえた授業改善について」
○ 研究授業 （教科：地歴公民・理科・数学）
　研究テーマ
　　「生徒が主体的に自分の考えを他者に伝えられるような授業づくり」
○ 意見交流

EVIDENCE BACED EDUCATION

03
生徒の変容

時期

令和４年度入学生の、令和５年２～３月と12月の"P"と"N"から変化を把握

現状N-1 12.5↓11.4	生徒が、授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表することができる。
現状N-2 5.0↑42.9	生徒が、自分で計画を立てて勉強することができる。
現状N-3 17.5↑22.9	生徒が、自分には、よいところがあると思うことができる。
現状N-4 15.0↑25.7	生徒が、難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦することができる。

現状P-1

今年度に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。（「ほぼ毎日」の割合）

80.0→80.0

ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。

（「当てはまる」の割合）

60.0↑71.4

※「当てはまる」と回答した割合

対象学年

令和４・５年度の入学生の"P"と"N"から全校生徒への影響を把握

現状N-1 12.5↑41.2	生徒が、授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表することができる。
現状N-2 5.0↑5.9	生徒が、自分で計画を立てて勉強することができる。
現状N-3 17.5↑29.4	生徒が、自分には、よいところがあると思うことができる。
現状N-4 15.0↑20.6	生徒が、難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦することができる。

現状P-1

今年度に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。（「ほぼ毎日」の割合）

80.0↑82.4

ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。

（「当てはまる」の割合）

60.0↑73.5

※「当てはまる」と回答した割合

EVIDENCE BACED EDUCATION

04

教職員・学校の変容

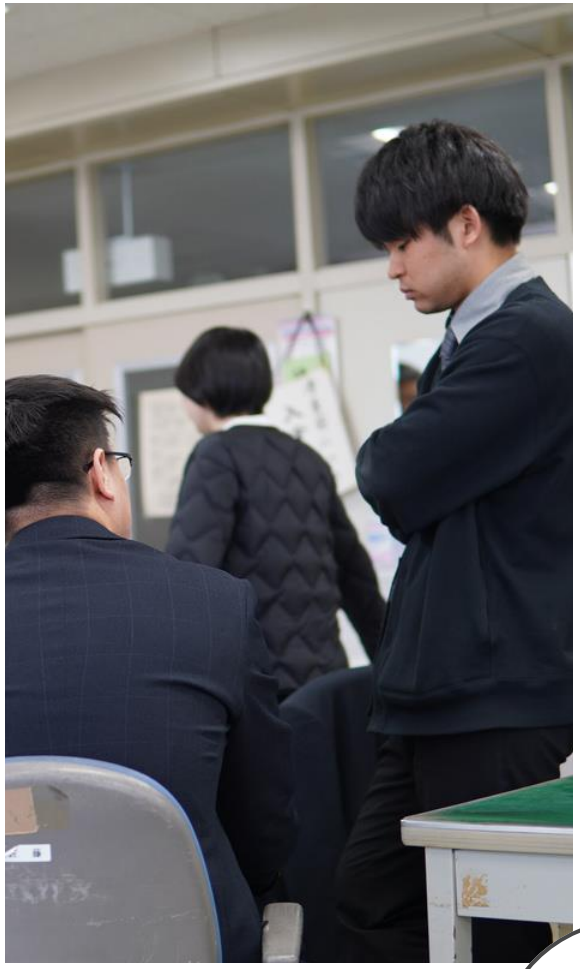
魅力ある教育活動と仕掛けづくり

取組が変われば成果が変わる。取組を続けることで理想との差を埋める。

令和５年度の特徴的な取組

教育活動と生徒・教職員の変化を"相関関係"として前向きに捉える

- ＥＢＥをきっかけに、卒業までに身に付けさせたい力を学年毎に（段階的に）言語化し、整理してみた。
- 学び合い、教え合いの授業風景が見られるようになった。
- 総合的な探究の時間（「えさし探究」）の中間成果発表会を設定した。
- 学校運営協議会を設置したことにより、本校の教育活動について話題となる機会が増えた。
- 地学協働アワードに挑戦した。
- 新型コロナウイルス感染症の５類感染症移行に伴い、従前の教育活動が少しずつ再始動した。
- 定期考査廃止に向けた議論が進んだ。



EVIDENCE BACED EDUCATION

05
おわりに

おわりに

学校全体をアップデートする

自己表現できる生徒を育てる学校は、自己表現の「機会」を積極的に設けているか？

「挑戦」する生徒を育てる学校は、「挑戦」しているか？

「計画」する生徒を育てる学校は、「PDCA」「OODA」を意識しているか？

自身のよいところを認める生徒を育てる学校は、学校を肯定的に評価できているか？